中南米総合研究プロジェクトの活動

1984年4月～87年3月

「中南米総合研究プロジェクト」が，総合課題「80年代中南米の社会経済発展」を掲げ，1984年4月に発足して以来，本年3月でちょうど3年が経過した。この3年間に，本プロジェクトは多くの人々の協力を得て，多様な活動を行なってきた。以下にこれらの活動内容を概括し，今後の一層の充実を期したい。

周知のように，1980年代に入って，ラテンアメリカは，経済上，政治上の大きな困難に見舞われ，いまなおこの困難から脱し得ず，また新たな発展への道を明らかにし得ない状況にある。このような危機的状況が，80年代に入って，なぜラテンアメリカに集中して生じたのか，その背景にある基本的要因は何か。また，そこにどのような変化が起こっており，新たな発展の方向についてどのようなことが考えられるのか。プロジェクトは，このような問題意識をもって，ラテンアメリカの発展過程と社会経済構造の変容を，さまざまな角度から分析し，その発展の方向を探ろうとするものであった。

このため，われわれは，当研究所各部室および外部の研究者からなるプロジェクト・チームを編成し，各研究者のこれまでの蓄積を活用するとともに，それぞれの専門分野からのアプローチを相互に関連づける共同研究の体制を組織した。また，このチームには，資料・統計関係者も参加した。これら参加者は，迅速な資料収集，書誌・統計類の整備・編纂をとおして，研究の進展に大きく貢献した。この分野では，最近10年間のラテンアメリカ地域に関する日本語文献目録の作成は重要な成果である。このような研究・資料活動の推進ならびにその成果の編纂作業のなかで，さらに，ラテンアメリカ情勢の現状分析，研究・資料情報の提供などを目的として，季刊誌『ラテンアメリカ・レポート』を創刊した（本号までの全10号分の論文・記事等のタイトル，執筆者は次ページのとおりである）。

以上のような多様な側面をもつプロジェクトの狙いは，研究を中心に資料，編集を合わせた3面にわたる活動を相互に関連させながら，広くわが国のこの地域に関する調査研究活動の拡大・深化に寄与しようとしたことにあるといえよう。プロジェクト参加者は3年間で延べ25名（所内17名，所外8名）に達し，また，その他多くの方々から執筆あるいはヒアリングによる協力を受けた。

研究活動は，国内に設けられた研究会を中心に進められたが，海外調査員の派遣，短期現地調査，ワークショップなども合わせ実施された。これらは，国内における研究を補完しただけではなく，ラテンアメリカ地域との研究・資料の相互交流にも大きな役割を果たした。とくにワークショップは，海外の著名な研究者との交流を深めるうえで重要なものであった。各年のテーマと招聘者は以下のとおりである。

- 1985年2月25～27日：「危機下のラテンアメリカ経済」（G・L・マルドナード，ECLAC貿易開発部長）
- 1985年11月5～7日：「1980年代ラテンアメリカの民主化」（J・コトレール，ペルー問題研究所長）
- 1986年9月30日～10月2日：「ラテンアメリカ諸国の経済政策」（D・ヘイマン，ECLACブエノスアイレス事務所専門研究員）

研究会は，ラテンアメリカの発展過程とその構造変動の検討を目的とし，初年度は，政治・経済発展の全般的過程，2年度目は民主化の過程とその諸条件，3年度目は産業発展・産業政策と社会変動，の分析に重点を置いた。これらの成果は下記のとおりである。

しかし，率直にいって，これまでの成果には，分析枠組み，対象地域・課題などの設定において，なお検討すべき点が残されていると考えられる。現在のラテンアメリカの危機が，これまでの発展の構造的矛盾を露呈したものと考えれば，この危機を理解し，今後の発展の条件を考えるために取り上げるべき課題は多い。プロジェクトは，本年4月から新たな総合課題「中南米の社会経済構造と開発戦略」に取り組む予定である。

中南米総合研究プロジェクトの成果

- 小坂允雄・丸谷吉男編『変動するラテンアメリカの政治・経済』1985年　218ページ
- 石井　章著『メキシコの農業構造と農業政策』1986年　146ページ
- 松下　洋・遅野井茂雄編『1980年代ラテンアメリカの民主化』1986年　276ページ
- 吉田ルミ子編『ラテンアメリカ地域日本語文献目録――1975～1985年』1986年　160ページ
- ECLAC編　小坂允雄・細野昭雄・加賀美充洋訳『ラテンアメリカ経済の危機――新しいパラダイムへの模索』1986年　179ページ
- 丸谷吉男編『ラテンアメリカの経済開発と産業政策』1987年　308ページ

小坂允雄（こさか・まさお／在ブエノスアイレス海外調査員）